


日中
あかやま
No. 600
2010/3/15
日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都千代田区
西船場1-1-1 東武ビル3階
日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835
日中友好協会
倉敷支部
〒712-8011
倉敷市連島中央1-8-4
(倉敷地方)
TEL/FAX:086146-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



中国語講座の皆さんと理事会との交流会



右から、竹内理事長、小林事務局長、稲葉理事

2月27日(土)岡山駅近くにある中国四川省料理レストラン又來軒で、中国語講座の皆さんと日中友好協会理事会との交流会を楽しみました。

9年前に4クラスで始まった講座も、ホームページを見て申し込みをされる方も多く、年々クラスが増えて今では9クラスになっています。

きょうは、講師3人、理事6人、生徒6人、それに、高島公民館で教えられている黄さんも出席されて、16人の参加でした。

年に2回行っている交流会も次第に参加者が増えていきます。夫が中国に出張することが多いので「仕事の関係で話せるようになりたい」とか中には、坪田譲治の中国語への翻訳本を

教室に持って来られる方がおられたり、多彩な皆さんです。

講師は、大学の学生で、子どもと同い歳の方に教わり不思議、と感想を漏らす方もおられました。

理事の紹介も交えながら、中国料理をいただきながら、次第に打ち解けあった会になりました。そして、一人の方が新聞の購読を約束してくださり、一人の方が会員になってくださいます。

稲葉泰子



黄さん、貝吹理事、山上さん、太田さん、



林崎さん、馬小菲講師、三尾さん



郭志華講師、小野さん、鈴木さん、



陳新妍講師、真田理事

日本語教室で日中友好新聞を活用

岡山市 福祉交流プラザさいでん日本語教室

私たちの中国帰国者の日本語教室では、先日、1月発行の本紙「建設進む中国の高速鉄道」の記事を教材として読み終えたところです。

帰国者の方々も講師の私たちも、日中がどこへ向かうのか、という関心のあるテーマに本紙は多くの情報を投げかけてくれており、格好の教材です。

当然と言えばその通りなのですが、帰国者の方々の読む力、それも一見難解に見える漢字の多い文章にこそ、高い理解度

を示されます。一方で日本語独特の修辞にはやや苦戦中ですが、文章の全体像が興味深い内容であればそのイメージもつかみやすいようです。

また漢語に関しては教わることも少なくありません。前述の記事でも「中西合璧」という言葉が話題になり、詳しく教わりました。2月発行の三国志曹操の墓が発見された記事、V字回復する中国経済に関する記事などもこれから活用したいと考えています。



(写真) 布下さん(左)と今岡さん、

話が盛り上がることを大いに期待しているところです。

布下しおり

太極拳 体験無料講習会

太極拳は、中国拳法の型を緩やかに、美しく演じる独特の武術体操です。

年齢や、性別に関係なく誰でも楽しめます。

心身の疲労を解消し、美容と健康に優れた効果があると言われています。

この機会に、あなたも体験してみませんか？

とき;2010年4月21日(水)午後6時~8時
会場;さんかく岡山(会議室)

所在地;岡山市表町三丁目14-1-201号
募集定員;10名程度 必ず下のお問い合わせ先にご連絡ください。

服装;体操着等の動きやすいもの・運動靴
主催;日本中国友好協会岡山支部
お問い合わせ;電話(086)942-7508(岡田)
090-3633-5714(青木)

小畑隆資 先生退官記念講演会

「植木枝盛の立憲政体構想」を聴講して

日中9条の会 真田紀子

3月3日、岡山大学で小畑先生の退官記念講演が行なわれる、その演題が「植木枝盛」と聞き、これはぜひ聴きたいと思えました。日本国憲法の成立に、大きな影響を与えた人物として知られていましたから、大変期待して聞きにいきました。

まず、今評判になっている、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」での土佐における武士の差別。上士と下士との違いについて説明してくだり、なるほどと合点しました。上士とは山内氏の家来であり、下士は長宗我部氏（関ヶ原の戦いと大阪の陣で豊

臣方に味方して滅んだ）の家来であるということでした。その格差と差別も理解できません。しかし、初めてこの差別の実態を理解して、武士の置かれている立場を考えてみると、薩摩との違いもわかるような気がしてきました。

もちろん、坂本龍馬は下士ですが、植木枝盛は上士なのです。板垣退助も上士です。先生の作つてくださった年表によると、植木枝盛は1857年、ペリー来航の4年後に生まれています。1867年の大政奉還の時には10歳でした。

1875年、18歳で東京へ游学。

1876年板垣退助の家に移り住み、そこから1892年35歳で亡くなるまで、板垣退助と行動を共にしています。

立志社から愛国社へと運動が拡大していく中で、植木枝盛は多くの論稿を発表しています。そして、1881年、24歳の時に発表したのが「東洋大日本国憲案」です。

小畑先生は、土佐は土族を温存しながら、近代化についていくのに成功した藩であり、その中で、板垣や植木が果たした役割について、考えていく必要があるといわれます。

また、資料として家永三郎編「植木枝盛選集」もコピーしてくださっており、これもまた、じっくり読んでみようと思つています。

中国帰国者の方と交流しよう

岡山医療生協の平和サークル おりづる

清須和子

2月24日、岡山医療生協の平和サークル「おりづる」では、中国帰国者の方と交流しようと、水餃子づくりに取り組み、男性3名を含む18名が集まりました。

残留婦人2世にあたる篠原さんと益田さん、残留日本人孤児問題について話をされる小林先生が、水餃子の材料やパネルを抱えて来られました。

餃子の皮をつくるころから始まり、小麦粉を捏ねる篠原さんの慣れた手つきに見とれてしまいました。具を作るとき、いり卵をミンチに混ぜるなんてすごい知恵だなあと思

ました。寝かせた生地を切ったものを麺棒で薄く延ばしながら



左の男性が篠原さん、右の男性が益田さん

ら、1枚の皮を作りだす益田さんの手の機械のような正確さ、早さに驚きました。熱々の水餃子を「很好吃」と言いながら（参加者の中に中国におられた方がいた）食べたあと、小林先生の話の聞きました。

「采来をひらく歴史」（日・中・韓の研究者・教師が共同編集した本）には、やむをえず親と別れて中国に残され、中国の養父母に育てられた子（中国残留日本人孤児）は3千人にのぼる」と書かれています。

私はアジアに対する戦争責任・戦後補償問題や社会的な差別についてもっと学習しながら、まわりの人たちに話していこうと思つました。

我が尊敬する先生

総社で日本語教室が開講して5年を迎える年に当たって、先生方のことが思い出されます。

5年前私たちは日本語が少し話せるだけでした。そのため人との交流が思うようにできず、生活するにも大変困りました。

中国残留孤児たちは多くの人たちから同情や関心を集めました。わたしたちに日本語を教えてあげたいという気持ちを持った先生方を募集し、日本語教師団が結成されま



総社日本語教室講師団会議 受講生も参加、

一番左が富岡さん

初から、私たち夫婦は子供になつたような気持ちで日本語を勉強しました。単語や語句を勉強しても、もう次の日にはほとんど忘れてしまうという状態でした。発音も正しくできなくて恥ずかしいと思つていました。

先生方が熱心に教えてくださいださる姿は、私どもの胸を強く打ちました。しだいに日本語を勉強することが私どもの趣味になりました。

今、私たちがとって日本語の勉強は日常生活に欠かすこと

ができないものになりました。教室で勉強したり、日常の出来事を話し合う事はとても楽しいです。いつも先生方は家から菓子やコーヒー・お茶などを持ってきてくれて勉強の休み時間に出して下さいます。

うれしいことですが私たちが夫婦は少し極まりが悪い思いをしています。お金がかかることとすし今後はやめてほしいと思つています。

私たちが日本語を勉強するために先生方は自分の時間を犠牲にしておられます。また教室に来られるときのガソリン代も負担しておられます。

去る11月22日に二人の先生方と私たちは西森先生のお家に行きました。

当日一つのこと私たちが夫婦の胸を強く打ちました。種井地域の国道一八〇号線から西森先生宅までの道は狭く、急勾配で急カーブのところが多々あります。

日本語教室が開かれる県営住宅から西森先生宅まで三〇キロぐらいあります。

その道を女一人で夜、時には一〇時くらいになると思いますが車を運転して帰るのは大変だと感じました。そのころ私たちは床に就いて

いるかもしれません。先生方が私たちにおこなってくださったことは強い励みになりました。私たち夫婦も頑張つて弛みなく努力をして行きたいと思つています

総社・日本語教室

富岡義晴・玲子

次回の新聞送付作業は3月23日（火）午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

和製 内内井垣 竹竹坪三